



吉子川



令和6年12月18日(水)
 学校だより NO. 55
 中島村立吉子川小学校
 発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
 のあやめの花に
 住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの
 十か条 (12月)
 できることからお手伝い「ありが
 とう。」と言われる喜び

◇ 「心づかい」と「思いやり」 ～吉子川ラウンドを通して考えさせられたこと～ ◇

「心」は見えないけれど、「心づかい」は誰にも見えます。それは、「心づかい」や「思いやり」は、「行動」だからです。「お年寄りに席を譲る。消しゴムがなくて困ってる友達にそっと貸してあげる。算数の問題が難しくて分からない友だちにヒントをあげる。転んでけがをした友だちを励まし、保健室に連れて行ってあげる。泣いている友だちのそばに行き、言葉をかけたり、笑顔を取り戻せるように働きかける。」このように行動は誰の目にも見えます。温かい心が温かい行動になり、優しい思いが優しい行動になるとき、心も思いも美しく輝き、相手の人に伝わります。「感謝の気持ち」は見えないけれど、「感謝の言葉」は相手に伝えることができます。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」…。言えは言うほど、自分も周りの人も幸せになれる言葉です。進んで、笑顔で言えれば、最高です！

吉子川ラウンドでは、「心づかい」と「思いやり」がたくさんありました。たくさん見えました。美しい子どもたちの姿でした。「何色が好き？好きな色のメダルをあげるよ」「がんばったね」「すごいね」「ここに立つんだよ」「大丈夫ドンマイ！」…次から次に温かい言葉が続きます。みんな笑顔です。笑顔を見ると見た人も笑顔になります。幸せはこうして広がるんだ、幸せは自分たちで創り上げるものなのだと感じました。



◇ 「子どもが育つ魔法の言葉」 ドロシー・ロー・ノルト著 ◇

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる
 とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる
 不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる
 子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる
 誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
 認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
 分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ
 子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ
 守ってあげれば、子どもは強い子に育つ
 和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる

広い心で接すれば、キレル子にはならない
 愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
 見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる
 親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る
 優しく思いやりをもって育てれば、子どもは優しい子に育つ

しみじみと考えさせられる詩ですね。子は親の鏡と言います。私は、思わず親の部分を教師、家庭を学校と読み替えて、自分の言動を振り返りました。子どもを育てるのは、家庭・地域・学校です。三位一体となって、幸せな大人になるための教育を推進したいと思います。